

日本人は水を使いすぎだ。

鹿児島市立城西中学校 三年 辺木 優希奈

「湯水のように使う」という慣用句を知っていますか。湯水のように好きなだけ、惜しげもなく無駄遣いをするという意味です。私たちの住む日本は水に恵まれています。顔を洗う。朝食をとる。歯を磨く。そんな私の朝の習慣にもたくさんのお水が使われています。水は私たちの生活に必要不可欠な存在となっ

ています。

「水の惑星」と呼ばれる地球ではありますが、私たち人間が使うことのできる水の量はわずか0・01パーセントのみです。その他のほとんどは海水であったり、地下深くにあつて簡単には利用できない状態にあります。私は海水を淡水に変えることができればよいと思いました。インターネットで調べてみるとそのような機械が開発されているそうです。しかし、デメリットが二つあります。一つ目はたくさんさんの電力がかかることです。電力を

作るときに二酸化炭素が発生し、地球温暖化を進行させてしまいます。二つ目は塩分濃度の高い排水が出てしまうことです。海の塩分濃度が高くなると生態系に影響を及ぼしてしまいます。使える水を生み出すのはそれだけ難しい水なのでいずれ気候変動や人口増加により世界規模で水不足が発生するといわれています。

すでに深刻な水不足問題を抱えている国もあります。調べてみると世界には日本を含め、十五の国しか水道水の安全が確保されていないそうです。最低限の水を得ることができず、どれだけ茶色く濁っている水でも口にしなければならぬ人は少なくありません。現にユニセフによれば一日あたり八百人が汚れた水のせいで命を落としているそうです。

今日日常的に使っているこの透明な水は貴重な資源であることに気がつくことができません。しかしその事実を知らずながら水を使っている日本人はどれだけいるのでしょうか。

蛇口をひねればいくらかでも水が出てくると思っているため、つつい水を使いすぎてしまっていると思います。

水を使用するのにたくさんのお金と時間がかけてられています。何度も何度もろ過をくり返すとき。飲めるように消毒するとき。高層ビルやマンションに電動ポンプで水をくみあげるとき。このような水処理に使われる電力は年間で七百億キロワットを超えているそうです。

また日本人一人の一日あたりの水の使用量は世界の二倍にあたります。このことから日本人がどれだけ水をぜいたくに使っているかわかります。日本人はもっと水のありがたみを感じて生活するべきだと思います。

それは私自身も例外ではありません。顔を洗うとき、歯を磨くときは水を出しっぱなしだし、水筒の残った水は捨ててしまっています。日々の生活を振り返ってみると節水できる場面は数多くあります。もちろん節約した

水が不足している人に届くわけではありませ  
ん。しかし、この貴重な資源を後世まで守り  
抜くことはできるのではないでしょうか。毎  
朝の一杯は私たちの生活を支えてくれている  
水に感謝の気持ちを込めて飲もうと思います。  
「湯水のように使う」私たちが、暮らしの中  
で水を使うときの意識を変えていくことに  
よってこの慣用句の使い方すら意味合いが変  
わっていくかもしれません。